

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol and coronary artery calcium prevalence, incidence, and progression: results from the Multi-Ethnic Study of Atherosclerosis (MESA). アルコールと冠動脈石灰化の頻度、進展：MESA の結果より	
執筆者	
McClelland RL, Bild DE, Burke GL, Mukamal KJ, Lima JA, Kronmal RA; Multi-Ethnic Study of Atherosclerosis.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2008 Dec;88(6):1593-601	
キーワード	
潜在性冠動脈疾患、MESA、飲酒、冠動脈石灰化	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>飲酒は冠動脈疾患リスクに対して J カーブ(中等度飲酒者は多量飲酒者、非飲酒者に対してリスクが低い)を示すことが知られている。しかし、これまでの飲酒と潜在性冠動脈疾患との関連は矛盾した結果が報告されている。本研究では 2-4 年間で冠動脈石灰化アルコールが存在、進行度と関連するかについて検討した</p> <p>方法：</p> <p>MESA は多人種間で潜在性動脈硬化症についての地域ベースのでコホート研究である。2000 年から 2002 年の間に、6 つのセンターで 6814 名の臨床的な循環器疾患がない参加者を集めた。</p> <p>結果：</p> <p>3766 名は現在飲酒者で、1635 名は過去飲酒者で 1390 名は非飲酒者であった。少量から適量飲酒者は循環器疾患のリスクは低かったが、冠動脈石灰化とアルコールとに J カーブあるいは予防的な関連は見られなかった。蒸留酒の多量飲酒は高度な冠動脈石灰化と関連を認めた。他のアルコール飲料は冠動脈石灰化の頻度、進行度と関連は認めなかった。</p> <p>結論：</p> <p>アルコールと冠動脈石灰化との 4 つの人種が異なるグループでの初めての大規模研究でありある。この結果は小・適量飲酒による循環器疾患の予防的効果は冠動脈石灰化の減少によってもたらされるものではないことが示唆された。</p>	